

やぐら調子

作詞 竹本健司
作曲 逸見芳春

ふるさとまつりだ 踊りんせえ
エトボツコウ 踊りんせえ
ふるさとまつりだ 歌いんせえ
エトボツコウ 歌いんせえ

一 みんな大きな輪になって
なんも忘れて踊りんせえ
ああさんねえさん踊りんせえ

二 まつりが来たけえふるさとで
逢うてうれしい良いおどり
別れせつない良いおどり

三 一ちよ踊るにや金いらん
踊る仲間があればええ
踊る手足があればええ

四 夢であるならさめないで
踊るあんたの前うしろ
恋しあんたの前うしろ

五 やぐら建つまで待てなくて
祭り提灯灯がともる
想う二人の灯がともる

六 にいみふるさと山の町
そっちの若えの戻ったか
田舎がええ言うて戻ったか

七 おいでんさるなら花時分
胸に花咲く事もある
赤い実のなる事もある

八 花火見にけえ金谷橋
仕掛けた恋の花が咲く
散って悔いない花が咲く

九 清水湧かせて阿哲峽
紅葉映して流りたい
恋にまかせて流りたい

十 白いもんなら負けりやせん
雪に石灰まだ白い
新見美人はまだ白い

十一 当たり前なら言んさんな
山にヒノキがえつとある
娘に縁談えつとある

十二 新見に来たなら昭和橋
覗いて見んせえ鯉の淵
覗いちゃいけん恋の淵

十三 あんた待つなら井倉洞
遠ええ道でもかまやせん
きょうてえ道でもかまやせん

十四 踊り更ければ月でさえ
西の山端（やまば）に傾くぞ
わたしの心も傾くぞ

十五 踊り仕舞うにやちと早い
もちいと唄を気張りんせえ
もちいと囃子を気張りんせえ

十六 踊り踊って夜も更けた
この一節を樂しみに
また来年を樂しみに